

母さんのバリカン

愛知県 西尾市立中畑小学校 五年

太田^{おおた}

悠斗^{ゆうと}

ぼくの頭はボウズだ

かみの毛がのびていた

「母さんバリカンでかみ切って。」

「いいよ

でもトラがりになっても知らないよ。」

と笑いながら言った

母さんもバリカンを

使うのはひさしぶりだった

ぼくが小さいころ

かみを切ってくれていたらしいが

ひどかったと

ばあちゃんが言っていた

ぼくはうまくできるか不安になった

外のデッキにイスを置いて

ふるしきをケープがわりにまいた

「ウイイイン。」

かみ切りが始まった

「いたっ。」

長いかみを切るとき

バリカンの刃にひっかかって

ちよっといたかったけど

だんだん毛が短くなると

いたくなくなってきた

「ウイイイン。」

「ウイイイン。」

チラッと見ると母さんは

汗だくになって真顔だ

「カチ。」

かみを切るのが終わったようだ

「とっつー」

と言って母さんはかがみを渡した

とてもいいかんじにできていた

「らがる」と

じょうずにできたじゃん。」

とぼくが言った

母さんはまんぞくそうに笑っていた

「どうやら」

次からもお願いできそうだ